

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 青山 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

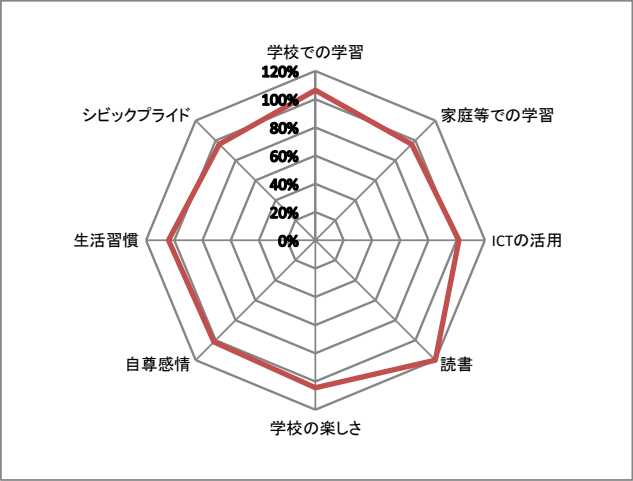
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全ての問題で全国平均を上回った。全体的に無回答率は低い。記述問題で若干、無回答率が高くなっている。正答数分布を見ると、分布に広がりがあるが、正答率が高い児童の割合が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	必要なことを質問しながら聞き、話し手に伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえることができるか問う問題	
	努力が必要な問題	情報の扱い方に関する事項の問題には、数多く触れる機会を作るとさらに伸びると思われる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	ほぼ全ての問題で全国平均を上回った。全体的に無回答率は低い。正答数分布を見ると、分布に広がりがあるが、正答率が高い児童の割合が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	図形の意味や性質について理解をみる問題。その中でも台形に関してよく理解できている。数と計算、データの活用等の問題も理解している。	
	努力が必要な問題	百分率で表された割合についての理解をみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」、「授業で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行うことができた」と肯定的に回答している児童の割合が高かった。 ○「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答をした児童が多く、今後も全校で自己肯定感を高める取組を継続していく。 ○「読書は好きですか」という項目への肯定的回答率が大変高く、読書時間も全国平均よりも長い傾向にある。子ども読書の日や毎週の読み聞かせの機会を活用したり、児童会活動を中心として読書を促す取組をさらに工夫したりしながら、読書好きの児童を育成していく。 ●地域の行事に参加していると答えた児童の割合は全国平均よりも下回っていた。地域との連携を深めながら、家庭への情報発信を行い児童の地域行事への参加を呼びかける。 ●「家庭で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童は全国平均よりも下回り、平日の授業以外の勉強時間や平日の勉強時間が少ないと感じている児童が全国平均よりも多かった。家庭での自主学習の行い方の指導や、教師による声掛けを続ける。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

＜学力向上に関する取組＞①【青山田くんタイム】毎週木曜13:25～全校一斉に学力向上を目的に、GIGA端末での教科の復習、タイピング練習、ドリルやプリントによる基礎学力向上等の時間を設定し、集中する取組を実施している。②【特別活動と教科の連動】学級会活動を全校で研究しながら、各教科でも子ども同士の学び合いにつなげている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

①学年に応じ、家庭学習への取組の様子を把握し、学級内に掲示し、取組の評価を行う。②携帯やスマホの使い方やネットトラブル防止については、啓発資料を定期的に配信、配布したり、GIGA端末で家族で情報セキュリティ教材を活用したりするよう案内を継続している。
③ホームページ、学校だより等で学校での様子を家庭に発信する。